

歴史探訪 Part II - ②9

江戸川木材工業株式会社

顧問 清水 太郎

平成の御代は31年4月30日を以って終了し、新しい令和元年は5月1日からスタートしました。昭和の御代は64年1月7日までで、1月8日から平成が始まりました。この時は、昭和天皇が1月7日崩御され、全国が悲しみに包まれている中で平成がスタートした為、今回のようなお祝いムードが全くありませんでした。その意味で、前天皇がご健在なうちに退位されたことは賢明な措置であったと思われます。

私が学卒後、4年間勤務した(株)間組の社長は大変優れた人で、中国の故事を研究し、自ら『微粒結集』という小冊子を作り、全社員に読ませました。その内容は、6世紀中頃興った周の時代の故事でありました。「周書に謂う」で始まるその文章は、小勢力が持てる力を結集し、大勢力を破り新しい国を創った、という主旨で、小冊子を微粒と名づけて全社員に徹底させました。神部社長は佐久間ダムの工事を受注するとき、アトキンソンという米企業(資本金100倍以上)と提携し見事工事を完成させました。私が入社した年、石原裕次郎主演の映画で有名になった184mの黒四ダムは完成間近でありました。

神部社長率いる間組は皇居の工事を僅か一万円で入札し、世間をアツといわせました。神部社長は皇室をこよなく尊敬し、青山一丁目にある自社地に高いビルを建てると東宮御所を見下ろすことになるので自分の目の黒いうちは高いビルを建てな、と豪語しておりました。私は戦後の教育を受けておりましたので、神部氏の方針にはかなりの抵抗がありました。その抵抗が尊敬に変わったのは、私が同社を退社して数年後、神部氏がマスコミの人との対談を聞いたときでありました。「世界のどこを見ても、日本の皇室のように、2千年以上もの間、誰にも侵略されずに続いている家系が他にあるか。これだけでも充分尊敬される価値がある。」

駒沢大学は聴講3年目で、有職故実の授業がありました。有職故実とは、朝廷や武家の、古来の官職、法令、風俗習慣などを研究する学問であります。

先日の天皇退位の式典でも、三種の神器の受け渡し、天皇装束の色、帽子の形、家臣の装束の色、並ぶ順序はいまだに踏襲されております。

他に今年は、哲学史、西洋史、考古学等を学びます。

令和の世が明るい希望に溢れた時代になることを祈っております。



東宮御所
出典：宮内庁

<http://www.kunaicho.go.jp/about/shisetsu/kokyo/togugosho-ph.html>